



発行所
 (株)日本設備工業新聞社
 東京都渋谷区桜丘町10-13
 〒150-0031 野元第1ビル
 電話 (03) 3496-4774
 FAX (03) 3464-1884
 info@setubikogyo.co.jp
 (購読料郵税共) 年額8,000円



技術者・技能者育成を使命に邁進

給水工事財団設立20周年で記念式典

公益財団法人給水工事技術振興財団(浜田康敬理事長)は三月三日、東京・西新宿のハイアットリージェンシー東京で晴れの設立二十周年記念式典を開催した。功労者の表彰や記念講演を交え、給水装置工事主任技術者・配管技能者の育成をはじめ技術開発・調査・研究に努めてきた誇りある歴史を振り返るとともに、給水装置工事の信頼性を高め、水道使用者の安心・安全を確保する技術・技能の向上へ全力で使命を果たしていくことを誓い合った。

平成八年の水道法改正され、新たに国家資格として主任技術者制度が設けられた。これを受けて組合連合会の出捐、厚生省の実施や技術者・技能者の養成に努めている。当日の記念式典には行政・業界関係者など約五百名が出席。浜田理事長が開会あいさつに立ち「本日を迎えることができたのは皆さまのご支援と協力の賜物と心から感謝している。平成六年頃



続いて来賓の宮崎正信厚生労働省水道課長が大田永日水協理事長、大澤田前理事長、藤田眞二前理事長、杉戸大作元理事長に感謝状が贈呈された。このあと藤田前理事長が「わが財団の生い立ち」、宇宙飛行士の山崎直子氏が「宇宙、夢、人をつなぐ」と題して記念講演を行った。祝賀会では江郷道生専務理事、宮崎課長、吉田理事長、大澤会長があいさつし、杉戸元理事長の音頭で乾杯。歓談後、四月から理事長に就任する眞柄泰基理事の中締めで盛況のうちに散会した。

フロン対策でロードマップ

環境省 省エネ冷凍空調機器普及へ

環境省は三月九日、東京・霞が関の同省会議室で第四回「フロン対策」の今後の在り方に関する検討会(座長・西園大実)を開催し、上流から下流まで現行のフロン対策の抜本的な見直しに向けた報告書案をまとめた。省エネ・脱フロン型冷凍空調機器の普及促進へ明確なビジョンに基づくロードマップを策定する。昨年十月にモントリオール議定書が改正され、規制対象に高い温室効果をもつ代替フロンHFCが追加された。このため同検討会ではHFC対策



率の低減や回収率の向上へ議論を重ねてきた。報告書案では上流対策として①HFC生産量の規制②省エネ・脱フロン型冷凍空調機器の普及③GWP(地球温暖化係数)の高いフロン類を使用した製品の流通抑制④フロン類を漏洩しにくく廃棄時に回収しやすい製品を製造する仕組みなどを打ち出した。業務用冷凍空調機器については冷媒転換を円滑に進め、ユーザーが計画的に機種を更新できる技術開発などを推進していく。また中・下流対策として業務用冷凍空調機器の管理者を効果的に監督する仕組みづくりを行う。

替えたら、変わった。

マンションの設計でMC5型を提案。結果、省エネでオーナーにも大変喜ばれました。
 (施工者)

省電力
30%削減!
 (当社比)

【計算条件】某マンション 総戸数111戸、地上13階建、ポンプ口径50A、ポンプ出力7.5kW
 ※従来型MC4と比較して

TERAL



第12回エコプロダクツ大賞
 エコプロダクツ大賞審査委員長
 特別賞受賞

テラルの新コンセプト「Triple e」による高効率を追求するテラル

静音 騒音が最大	5dB ダウン (当社比)	低振動 防振ゴムにより ポンプ振動を絶縁
軽量 最大60kg	32% ダウン (当社比)	防振ゴム

直結増圧給水ユニット MC5型

省エネ・静音・低振動で選ばれる増圧給水ポンプ。
 くらべれば、テラルのMC5。